

一人一人が主体的に活動する学級経営の工夫  
～話し合い活動を生かして～

目 次

I	テーマ設定の理由	27
II	研究仮説	27
III	研究の全体構想図	28
IV	研究内容	29
1	学級経営	29
(1)	学級とは	29
(2)	学級経営とは	29
2	児童生徒理解	30
(1)	学級経営における児童生徒理解の必要性	30
(2)	学級における児童理解	31
3	話し合い活動を生かした主体的な取り組み	32
(1)	主体的に活動する児童とは	32
(2)	話し合い活動	33
4	指導の過程	34
(1)	課題意識をもたせるための手だて	34
(2)	学級活動実践にむけての具体的な手だて	36
(3)	達成感や満足感を味わわせるために	42
5	授業実践	43
(1)	主題名及び題材名	43
(2)	主題設定の理由	43
(3)	主題目標	44
(4)	指導計画	44
(5)	本時の指導	44
(6)	事後の指導	46
(7)	児童の活動過程	47
(8)	評価	48
(9)	授業後の反省	48
V	研究のまとめと今後の課題	48
1	研究のまとめ	48
2	今後の課題	49
3	おわりに	49
4	主な参考文献	49

宜野湾市立大謝名小学校

砂川勝美

<学級経営>

## 一人一人が主体的に活動する学級経営の工夫 —話し合い活動を通して—

宜野湾市立大謝名小学校教諭 砂川勝美

### I テーマ設定の理由

情報化社会といわれる現在、私達のまわりには多くの情報が氾濫し、ややもすると、受け身的な立場がつくられつつある。また、高齢化の進行に伴って、生涯学習が大きく取り上げられ、関心が高まっている。このような社会背景のもと、今回の学習指導要領の改訂では、社会の変化に主体的に対応できる能力、自己教育力の育成が重視されている。これをうけて学校教育では、自ら学び、考える児童の育成を図るための指導の工夫が課題となっている。

これまでの学級経営の中でも、児童が自分たちで考えて行動し、課題解決をしていくことをめざしてきた。しかし、私自身の具体的な指導の手だてが不十分であったため、

- やりたいことがあっても計画を立てることができない
- 主体的に考えようとせずに、周囲の意見に左右されてしまう
- 指示待ちの態勢が目につく

というような消極的な態度の児童が多い。

自己教育力を育成するためには、まず、児童一人一人が主体的に活動していかなければならない。主体的に取り組むことによって、児童は、達成感や満足感を味わい、また次の活動への意欲が生まれてくる。したがって、日常の学校生活の中で、主体的な活動を推進できる場を設定し、具体的な手だてを施す必要がある。

今回、話し合い活動を充実させることが、児童の主体的態度の育成に効果的だと考え、

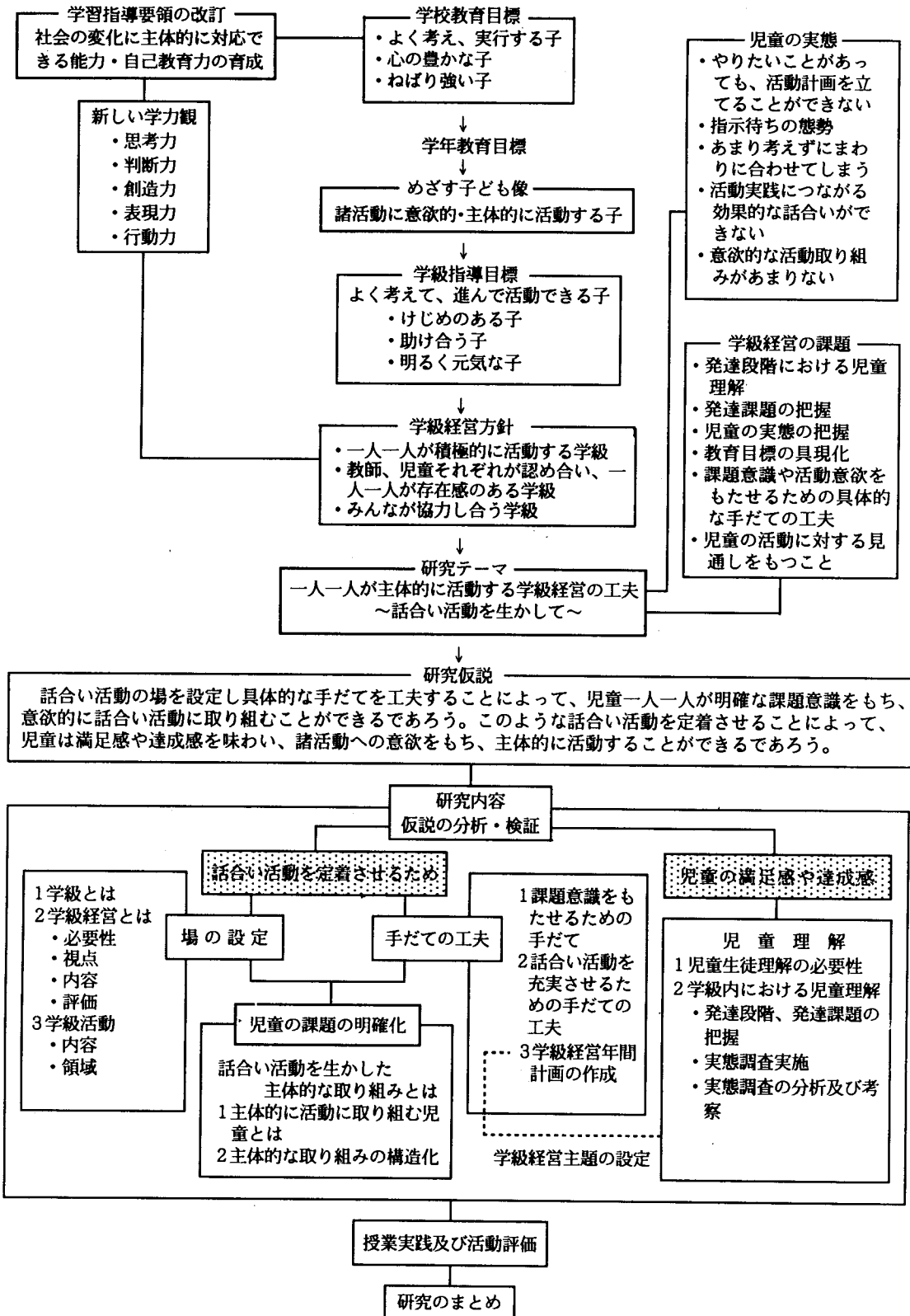
- ・話し合いの中心点をはっきりさせる（思考力）
- ・一人一人に課題意識をもたせる（判断力）
- ・活動に計画性、方向性をもたせる（表現力）
- ・話し合ったことに基づいて活動実践ができる（創造力、行動力）

等の具体的な手だてを中心に研究を進めていきたい。この研究の実践化を通して、児童がこれからの社会に主体的に対応していく力を培うことができることを期待し、本テーマを設定した。

### II 研究仮説

話し合い活動の場を設定し、具体的な手だてを工夫することによって、児童一人一人が明確な課題意識をもち、意欲的に話し合い活動に取り組むことができるであろう。このような話し合い活動を定着させることによって、児童は、満足感や達成感を味わい、諸活動への意欲をもち、主体的に活動することができるであろう。

### Ⅲ 研究の全体構想図



## IV 研究内容

### 1 学級経営

#### (1) 学級とは

学級は、学校という組織の基本的な単位である。社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成をめざし、その目的や目標を達成するための計画や実践、つまり学校教育の大部分が施される場である。子どもにとっては、一日の大半を過ごす生活の場であると同時に、21世紀を担う人間としての素地を培うための学習の場でもある。

学級は、教師と子ども、また子ども相互のかかわりを通して、次のような課題をもつと考えられる。

- 子どもが自分の役割を受け持ち、こなしていくという体験ができる場である。
- 教師、子どもそれぞれが共通の目的に向かって、互いに協力しあう場である。
- 一人一人の子どもが他人のよさや価値を認める場である。
- 子ども一人一人が個性豊かに伸びる場である。

#### (2) 学級経営とは

学級経営とは、教師が行う生活指導や学習指導などの学級教育活動がより効果的になされるための手だてを継続的に行うことである。

##### ① 必要性

学級においては、学校生活における望ましい生活習慣を身につけさせること、意欲を育て、基礎的・基本的な学習内容を確実に身につけさせることを大きなねらいとした活動が展開されている。その活動の積み重ねによって、児童一人一人が豊かな心をもちたくましく成長することが期待される。そのためには、学級の目標に向かう担任の姿勢が重要な課題となってくる。教育活動全般をとおして、学級の指導方針をどうするか、児童一人一人が伸びるためにはどのような指導をすればよいのかという具体的なものをもっていなければならない。

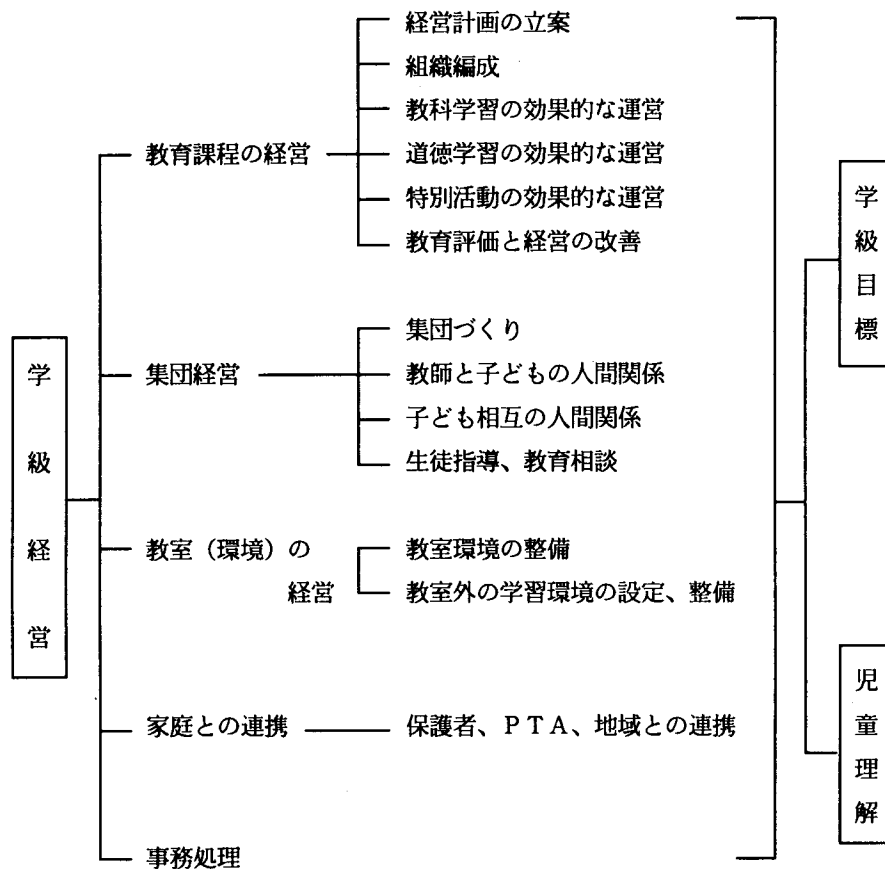
##### ② 視点

学級には、児童の実態、発達段階、教師の教育観、保護者の関心などから生まれる特性がある。その特性を組織化し、具体的な計画を立て推進していくために次のような視点をもって経営にあたる。

- ・担任の特性を生かす。
- ・学級教育目標の具現化につながるものとする。
- ・日常的な指導をめざす。
- ・子どもの意欲や考えが反映されるものとする。
- ・実践の積み上げを大切に、意図的、計画的、継続的に実践できるものとする。
- ・個人や集団のかかわりがあり、子どもの変容がしやすいものとする。

##### ③ 内容

学級経営は、次に示すような内容にわたって、学級目標の達成にむけての指導と児童生徒理解が確実におさえられていなければならない。



#### ④ 評価

- ・学級の目標や経営の重点がどの程度達成されたか。
- ・児童一人一人への理解が深められ一人一人を生かした活動が進められたか。
- ・学級集団の育成がどの程度進められたか。
- ・学級指導（教科、道徳、特別活動）についての経営が計画通り進められたか。
- ・生徒指導の重点や努力目標がどの程度徹底されたか。
- ・教室環境の構成や活用にどのような工夫がなされたか。
- ・家庭や保護者との連携がどの程度なされたか。
- ・学級の事務は能率的に処理されているか。

## 2 児童生徒理解

### (1) 学級経営における児童生徒理解の必要性

児童生徒の資質、行動、意識などを理解することが児童生徒理解である。学校、学級の目標に向かって、学級経営を実践していくための具体的な手だてを見いだしていくうえで児童生徒理解は必要である。特に、児童生徒の問題行動が複雑化、多様化する昨今においては日常生活指導や学習指導を進めるための資料となる。

学級経営の実際においては、児童生徒の学習意欲を育て、基礎的基本的な学習内容を確実に身につけさせるような展開をしていかなければならない。そのためには、

- ・発達段階、発達課題の把握
- ・児童相互の人間関係の把握
- ・児童が学校、学級、教師に求めていることを理解
- ・児童の日常の生活、行動、意向の観察、把握

ということに重点をおき、資料化しておく必要がある。

そうすることによって、

- ・児童生徒の生活、学習目標を理解し、行動予測に役立てる
- ・児童生徒の心の内面の悩みや欲求不満を理解し、指導に役立てる

ことができる。

児童生徒理解においては、その発達段階に応じた発達課題を教師自身がとらえ、児童生徒の意欲とかみ合わせていくこと、一人一人を見つめ全体をとらえ、その中で個を伸ばしていくことが重要な課題である。

## (2) 学級における児童理解

### ① 文献、実践事例による発達段階・発達課題の把握

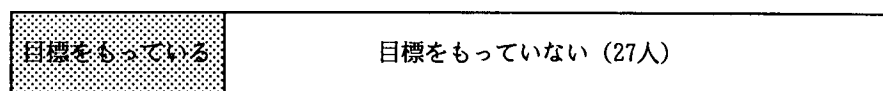
児童期の子どもは、単なる近隣ということだけでなく、類似性のある仲間関係を求める。中学年の児童は、自分を取り囲む環境に興味をもつようになりやる気に満ちている。また、自己顕示欲が強くなり行動力がたくましくなる。ものごとの原因や理由を知りたいが、矛盾に気が付くようになる。調べる、集める、工夫することなどを好み、一定の視点から比較するなど観察が細かくなり、その中でより都合のよいものを選択しようとしていく。また、次第に全体を見通すことができ、個人の立場や心情がわかり始める。

この時期の発達課題としては、主体的に考え、その考えをきちんと主張し修正を加えながら、主体的な活動を十分に体験することである。また、自力で問題解決をしようとする意欲をもち、やり遂げる努力をすることが大切である。中学年の発達段階上、児童相互のかかわりを意識しながら課題解決していく必要がある。

このような発達段階、発達課題をふまえると、児童は問題解決学習を十分にこなすことができると考えられる。そこで、日常的な学級活動の中で、よく考えさせ、意見を述べさせ、話し合わせることは児童の活動を支える効果的なものとみなされる。

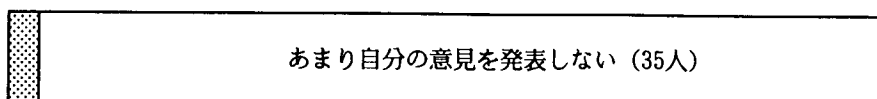
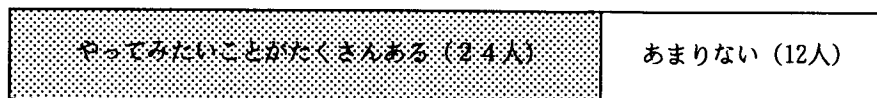
### ② 実態調査の分析考察による児童理解

- ・ 児童は、学校で友だちと遊んだり一緒に何かをしているときに楽しいと感じている。三年生になり、教師と児童のつながりよりも児童相互のつながりが強くなっているということがよくわかる。
- ・ 目標をもって学校生活を過ごしている児童はとても少ない。



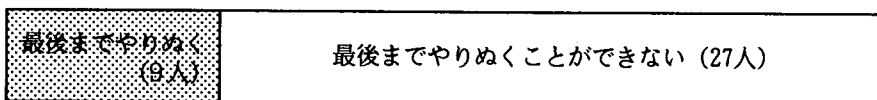
(9人)

- ・ 学校生活の中で「やってみたい」と思うようなことがよくあると感じている児童は多く、特に友だちといっしょに何かをやってみたいと思っている児童が多い。しかし実際に行動に移している児童は少ない。つまり、具体的に何をどうすればよいのかわからない児童が多いということである。学級会などをうまく活用することができず、自分の意見をきちんと主張できる児童も少ない。



「よく自分の意見を発表する」(1人)

- ・ やり始めたことを最後までやりぬくという児童は少なく、児童自身がめあてをもっているかどうか、児童の意欲にかかわりがあると考えられる。



- ・ 児童は友だちに対して、自分に優しくしてくれたり、何か困ったことがあったら助けたりすることを望んでいる。また、友だちが周りのことを考えずに自分勝手な行動をしたときに嫌悪感を感じている。まだ自己中心的なところが強い。活動を通して児童がお互いに助け合う場を設定する必要がある。

### 3 話し合い活動を生かした主体的な取り組み

#### (1) 主体的に活動に取り組む児童とは

「主体的」とは、ある活動や思考などをなすとき他のものによって導かれるのではなく、自己の純粋な立場において行うさまを意味する。

学校生活において、主体的に活動に取り組む児童を次のように考える。

- ・ 自分はどうしたいのかどうするべきなのかを考え行動の方向を決めることができる児童
- ・ 自分の目標に向かって努力することができる児童
- ・ 自分で実行する意欲をもっている児童
- ・ やるべきことを最後までやりぬこうとする児童
- ・ 自分の考えや行動を振り返り、評価できる児童
- ・ 仲間と協力できる児童

日常生活の中で、児童は興味や関心のあることに対しては意欲をもって主体的に取り組むことができる。したがって、主体的に取り組む児童を育成するためには、そのような活動の場を設定することが大切な手だてである。

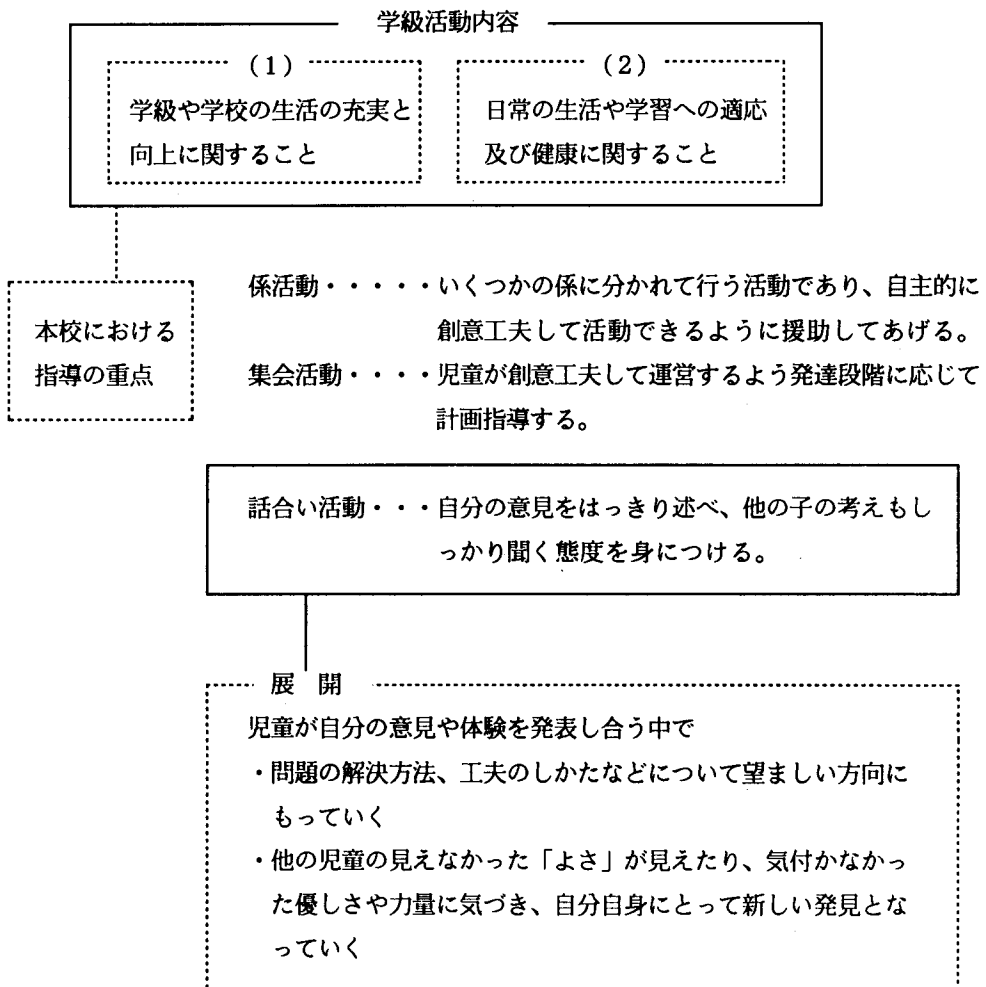
(2) 話し合い活動

① 学級活動としての話し合い活動

学級活動は、学習指導要領における特別活動の目標「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」をうけて、日常のあらゆる教育活動とかかわるものであり、児童の興味や関心を高める活動である。

学級活動がその特質を生かして展開されることによって、学級経営の成果をあげることが期待され、また学級経営の機能が適切に発揮されていくことによって、学級活動のねらいも豊かに達成されていく。学級経営は、学校教育目標の実現を究極的にめざしながら、学級内に望ましい人間関係と、楽しく充実した共同生活を築くことを重要な課題としている。と同時に一人一人の児童に健全な生活態度と集団成員としての資質の育成を図る機能をもっている。学級活動は、学級づくりを進めていく実践の場（時間）である。

学級活動における話し合い活動の位置づけを次のようにまとめてみた。





#### 4 指導の過程

##### (1) 課題意識をもたせるための手だて

課題意識をもたせるための具体的な手だてとして、「めあてカード」を作成し活用させた。

第一段階として、児童に「一人めあて」を決めさせた。その際、他の児童と協力しなくても達成できるめあてにするために、めあては学習活動の範囲に限定した。また、児童の課題意識を高めるために、めあてにむかってそれぞれがんばったことを「がんばりみつけ」として毎日記録させていった。

それが定着してくると、第二段階として、二人組をつくり「二人めあて」を決めさせた。めあての内容としては清掃や整理整頓などの生活面での活動に限定した。

次の段階では、「グループめあて」としてグループ単位の活動のめあてを、最終段階では、「学級めあて」として、学級活動とかかわらせためあてをもたせた。

「めあてカード」に、毎日「がんばりみつけ」を記録させることによって、児童自身の活動を振り返る機会を設けることにした。また、毎日回収し、児童の記録に教師からのコメントを書き入れ、成功感をもたせるための一人一人へのことばかけとして活用した。また、一人から二人、そしてグループから学級へとめあてを拡大させていくことによって、徐々に話し合いを児童の活動のなかに取り入れるようにしていった。

3年2組 (

3年2組 (

一人めあて **算数 を がんばりたい。**

算数の学習のめあてを見つけて  
その日に がんばります。

一人めあてを決めたわけ  
まねわり算のしゅくだいで、  
小さいがずえまえにしたしゅ  
だをしたから がんばりたい。

めあてにむかってがんばったことを見つけて書きましょう。

月日	がんばりみつけ	先生から
12/3	算数のしゅくだいをきけるのをわ かして23ページから25ページま までいしょうけんめいがんば りました。	しゅくだいをきけるよ うになりました。でも、まだ 23ページまで がんばって、えいっ!!
12/4	計算をまちがえな いよにがんばる。	まちがえは、いいかげん にやると、だめだよ。 今日は、問題をよくか いた。
12/5	プリントで前にた たえてきた。うれし かった。	よかったね。 めあて: ええ、と うれしくなってます。 よくがんばりました。

☆考えたことを書きましょう。

まちがえないようにきちんとでき  
るかな？

めあてをもって、それにむかって、がんばるということ。  
とても大切なことだね。だんだん、がんばりが  
ほんものの になてきねね、おめでとう。 (19)

一人めあて **本をたくさんよむ。**

本をよんでわかったことや、本を読みか  
いしうかたを、たくさん がんばりか  
けた。

一人めあてを決めたわけ  
本をたくさんよんでないから  
いっはいよもうとおもった。

めあてにむかってがんばったことを見つけて書きましょう。

月日	がんばりみつけ	先生から
12/3	さんすうがきりけ たのにきになつた。	さんすうがきりけ くわてきただね。 本読ん、すうが かた
12/4	きょうじかんめい にきやした。それです を木きききえよんた。	おれくんは、大き ききききえよんた。 きききの、に かた
12/5	うちのほんをい いよんだ。	おれくん、きょう にききききえよん た。

☆考えたことを書きましょう。

めあてにむかって、めあ  
てをきききえよんた。



(2) 学級活動実践に向けての具体的な手だて

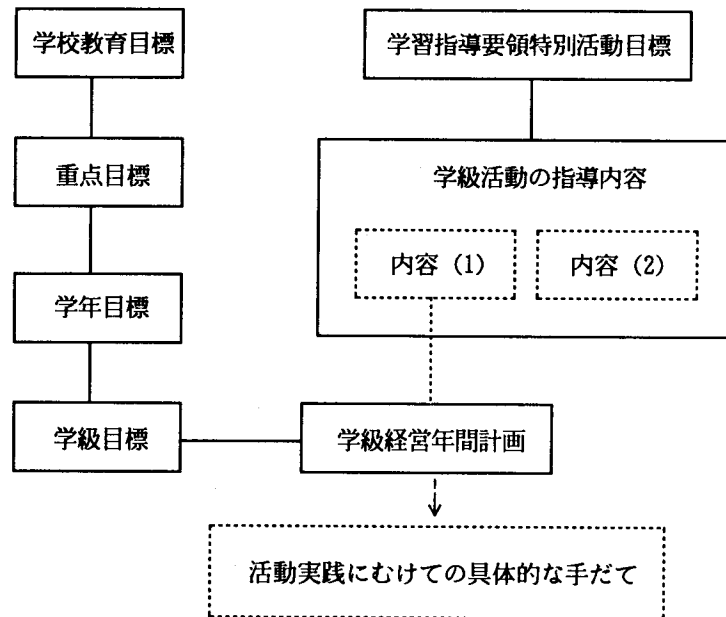
① 学級経営年間計画の作成

学級活動は児童の実態に応じて、弾力的なものとして扱わなければならない。教師が活動の目安として計画を立てることによって、見通しをもち、ゆとりをもって児童をリードしていくことができる。そのためには、学級経営の具体的な方向をもっていなければならない。

ア 学級経営年間計画を作成するまでに

年間計画を作成する際には、常に明確な指導目標をもっていなければならない。

また、指導内容や児童の実態を把握することをふまえて、活動計画が立てられる。それによって、児童への具体的な手だての工夫がなされる。



イ 学級活動配当時間（第3学年）・・・計38時間

内容（1）の活動・・・21時間

内容（2）の活動・・・17時間

ウ 作成上の留意事項

- ・指導の内容を明確にすること→学級目標を念頭に置く
- ・児童の発達段階に即すること→指導内容の主題を組織化する
- ・自主的な活動を促す計画であること
- ・学校や学年の行事との調整を心がけること
- ・生徒指導との関連を図ること

エ 学級経営の年間計画（備考欄（ ）内の数字は活動内容、○内の数字は単位時数を表す）

月	時期的課題	めあて	生活課題	主 題	話し合い活動の指導	指導上の留意点	備考(「」内題材)	評 価
4	仲間意識を育てる		<ul style="list-style-type: none"> <li>学級生活のめあてをもち、生活の方向付けをする</li> </ul>	◎3年生になって	◇課題意識をもたせる	○児童に理想の学級像をイメージさせ、新学年、学校生活に対する意欲をもたせる	「学級目標を決めよう」 (1)(2)①	自分なりの課題意識をもち、活動する意欲をもつことができたか
				◎みんなの学級	◇学級会のもちかた、話し合いの進め方などを指導する		(2) ①	話し合いの進め方が理解できたか
5			<ul style="list-style-type: none"> <li>学級の一員としての意識をもつ</li> <li>学級の組織を確立する</li> </ul>		◇計画委員会をつくって、話し合いの計画立案や話し合い活動の役割分担などについて考えさせる	○計画委員会の意義と活動内容を理解させ委員の選出方法、交替の時期を決めさせる	「計画委員会をつくろう」 (1)(2)①	新しい学級の仲間と力を合わせて積極的に活動することができたか
				◎明るい学級	◇話し合いカードの活用のしかたについて理解させる	○話し合いカードに前もって意見や質問などを記録させることによって発表する意欲をもたせるようにする	※学級活動前日の「掃りの会」で説明する  「係を決めよう」 (1) ①	話し合いカードに自分の考えを書くことができたか
6		一人めあて↓二人めあて↓グループめあて	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級生活の維持向上に努める</li> </ul>		◇話し合いの進め方のシナリオを編成し、それに沿って話し合いを進めさせる ◇めあてカードを活用させる	○計画委員会をもち、話し合いの進め方について話し合わせる ○めあてを決めさせ、がんばりみつけをさせる	※放課後や休憩時間などに計画委員会をもつ「学習のきまりをつくろう」 (1)(2) ① ※めあてカードを作成し、掃りの会の時間にがんばりみつけをさせる 「そうじのしかたを工夫しよう」	シナリオに沿って、話し合いを進めることができたか  めあてをもち、めあてにむかって努力することができたか
				◎楽しく取り組もう	◇議題について、シナリオや話し合いカードをもとにして話し合いを進めさせる ◇行動カードを活用させる	○話し合い活動が定着するように、シナリオの活用を随時させていく ○児童自身の活動を振り返る機会を与え、次の活動への意欲をもたせる	「七夕集いをせいこうさせよう」 (1) ① ※めあてをグループめあてに拡大させ、がんばりみつけをさせる 「お楽しみ会をしよう」 (1)②	学校行事や学級行事に積極的に参加し、みんなと協力することができたか
7	仲間づくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>学級経営活動に積極的に参加する</li> </ul>	◎活動をふりかえろう	◇めあてカードの記録や話し合いによって、自分の活動を振り返り反省させる	○児童ができるようになったことを多く取り上げ、めあてに対する達成感や成就感をもたせる	「一学期をふりかえろう」 (2)①	自分の行動を振り返り反省することができたか

9	学年、学級のまとまりを高める	一人めあて→二人めあて→グループめあて→学級めあて	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校、学級生活への適応を再調整するとともに2学期の生活を高める</li> </ul>	◎新しい計画を立てよう	◇新学期にむけて課題意識をもたせる ◇他の意見や話をきちんと聞くことができるようにする	○「やればできる」という気持ちをもたせ一学期よりもより高まっためあてをもつことができるようにする	「二学期のめあてを決めよう」 (1)(2)① 「係を決めなおそう」 (1)①	一学期の反省をもとによりよい学校生活を送るためのめあてをもち実践することができたか
10			<ul style="list-style-type: none"> <li>体力づくりへの関心を高め、学校行事に積極的に参加する</li> <li>基本的な生活習慣(時間姿勢)の徹底</li> </ul>	◎力をあわせて	◇児童の中から議題を提案させ、話し合い活動をさせる	○計画委員会を活発に運営させ、議題の選定を任せる	「みんなでつくる運動会」 (1)(2)① ※めあてを学級めあてに拡大させる	学校行事に自主的に参加し、安全な行動ができたか
11	一人一人の学級内の存在を高める		<ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係など生活諸問題への問題意識を高め解決への意欲を図る</li> <li>積極的に学級の経営に参加し、よりよい学級をつくらうとする活動を進める</li> </ul>	◎自分を見直そう	◇児童の中から議題を提案することができるように生活に目を向けさせる	○めあてカードをうまく活用させて、児童の基本的な生活習慣の育成に役立てる	(1)①	自らに目を向け、学校生活を楽しく充実させることができたか
12				◎楽しい学級にしよう	◇議題ポストを設置して、自発的に議題を提案することができるように生活に目を向けさせる	○児童の生活の中から問題点を見つけさせ改善していくことができるような話し合いをさせる	※計画委員会で議題の選定を行なう (1)①	よい仲間づくりのために生活や活動の反省をし、これからの学校生活に生かすことができたか
					◇計画委員会を充実させることにより、各グループへの連絡が確かにおこなわれるようにする	○学級の児童全員に参加しているという意識をもたせる ○朝や帰りの会で、連絡をさせる	「さつまいもパーティーをしよう」 (1)②	お互いに協力し、楽しく学級行事に取り組むことができたか
				◎一人一人ががんばろう	◇みんなの前で、自分の意見を発表し、主張できるようにする ◇周りの意見も真剣に聞き、どうすればよいのかということを考えさせる	○全員が進んで取り組めるように役割を分担し、実践できる計画を立てさせる	「お楽しみ会をしよう」 (1)② 「二学期をふりかえろう」 (1)(2)①	自主的に考え、やり遂げることの大切さを知り、実践することができたか
1	集団の活動や創造力を発揮して、集中を確立する		<ul style="list-style-type: none"> <li>連帯感や所属感を高め充実した学校生活を確立する</li> </ul>	◎みんなで楽しく取り組もう	◇話し合いをしながら、自分たちの活動を調整できるようにする ◇各係の中で役割を分担し、楽しく取り組むことができるようにする	○児童が提案の中から、方法を工夫しながら楽しく取り組めるものを選定する	「ドッジボール大会をしよう」など (1)③	仲間づくりの充実と発展をめざす集会活動の計画、実践が助け合っていたか

2					○学校行事に進んで楽しく取り組めるようにめあてを話し合わせる	「楽しい学芸会」 (1) (2) ①	学校行事に進んで参加し、協力してがんばることができる
3		・学校行事を通して学校集団の強化を図る	◎感謝の心をこめて	◇自主的、実践的な話し合いができるようにする		「六年生を送る会の計画を立てよう」 (1) ①	
			・一年間の学級、個人の成長を確認しつつ、新年度へむけた抱負をもつ	◎もうすぐ4年生	◇話し合い活動を生かして、主体的な取り組みができるようにする	○一年間の活動をまとめたりしながら、これからのめあてをもたせる ○自発的、自主的な活動として取り組めるように励ます	「3年生をふりかえろう」 (1) (2) ① 「学級お別れ会をしよう」 「学級お別れ会をしよう」 (1) ②

## ② 年間活動計画をもとにした議題の選定

学級経営の年間計画をもとにして、児童の発達段階や発達課題とからみあわせた議題の選定の工夫をする。時期に応じた学級経営の主題に伴わせた学級活動の取り組みをさせる。議題の選定の際には、議題ポストの活用など児童からの提案が主になるので、題材は弾力的なものである。

### ア 議題の選定条件

- ・学級生活の充実と向上にかかわる問題であること
- ・学級の児童全員に共同の問題であること
- ・児童自らが解決の方法を見いだすことができること
- ・児童による自治的活動ができること

そのために学級担任は・・・

- 日ごろから児童の学級生活を見つめる構え、問題を発見する構えを養うこと。
- 活動の時間と場所を確保すること。
- 児童の自主的な活動を促す指導・助言を行い、その発達段階に応じて意図的、計画的に指導していくこと。

### ③ 話し合い活動の充実

ア 「朝の会」や「帰りの会」などを通して、一人一人に発表する機会を多く与えたり、話し合いを進めていくリーダーを養成する。

#### イ 座席の工夫とグループ編成の留意点

中学年の児童は、友だちとのかかわりが大きな意味をもつため、グループ編成については留意する必要がある。子どもたちの感動は自分の活動達成による満足感はもちろんのこと、友だちといっしょに活動するところに根ざしている。したがって、ここにも児童理解が大きな意味をもつ。どの子とどの子をかかわらせるか、どの子が遅れがちな子を援助できるか、どの子がリーダーとしてやっていけるかなどを十分に把握したうえでの編成をしなければならない。

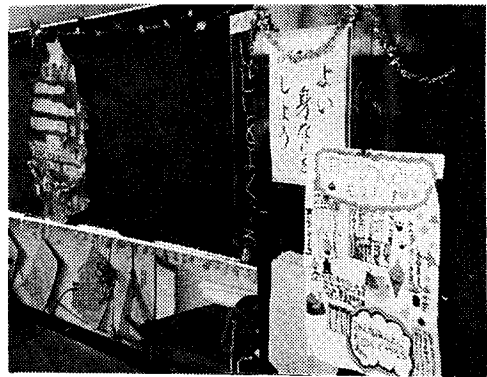
#### ウ 計画委員会の設置

学級活動実施の中心組織として事前の準備や本時の運営を担当する計画委員会を組織化する。委員会は、学級役員及び各係の班長など数名で編成されている。この活動においては学級活動の議題を選定し、活動内容やその方法などについて話し合わせる。

週計画（一週間の活動予定）をもとに意欲的、自主的なものとしての実践化を図る。また、計画委員会の記録カードの活用により、他の児童への連絡が確実にできるようにし、学級の児童全員が参加できる学級活動を心がける。

計画委員会を開く時間は放課後や休憩時間などをあてる。

<p>計画委員会</p> <p>平成5年12月10日(木)</p> <p>議題 おたのみみ会について。</p> <p>計画委員</p> <p>話し合う内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① ていあんしゃ(よう子)</li><li>れんらく(たかみつ)</li><li>② やりたいことをきめる(3つ)</li><li>③ ひつような係をきめる<ul style="list-style-type: none"><li>1 かざる</li><li>2 かざり物をはる (歌とか)</li></ul></li><li>④ 3プログラムをみる<ul style="list-style-type: none"><li>4 司会</li><li>5 じゃんび (当日)</li><li>6 歌係</li><li>7 レク</li></ul></li></ul>
---







⑤ 行動カードの作成と活用

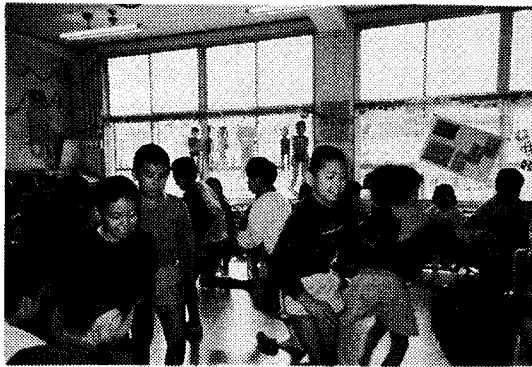
行動カードを活用することによって、話し合ったことが実践に生かされているか自己評価またはグループ評価をする。また、話し合ったことを修正し、よりよい方向にもっていくよに活動することができる。

行動カード (1)	内容
	<p>※お出しの会では、どんな任になりましたか？                  ずっとみんなを力を出してがんばろうという気持ちでいっぱいでした。                  う！先生もお出しの会がとても楽しかったです。                  他のグループのみんなが楽しくなるようなことを僕のみなさんで考えてください。</p> <p>&lt;話し合ったこと&gt;                  1. みんなの力を合わせてがんばる。                  2. みんなの力を合わせてがんばる。                  3. みんなの力を合わせてがんばる。</p> <p>&lt;よくやること&gt; ほかのみんながまわってみたいようなことを                  しよう。みんなの力を合わせてがんばる。</p> <p>&lt;感想&gt;                  みんなががんばるのことが楽しかったです。                  (い)と、とてもいい気分でした。</p> <p>先生から                  一番、がんばるの気持ちが伝わってきた。                  みんなの力を合わせてがんばる。</p>

行動カード (2)	内容
	<p>※お出しの会では、どんな任になりましたか？                  ずっとみんなを力を出してがんばろうという気持ちでいっぱいでした。                  う！先生もお出しの会がとても楽しかったです。                  他のグループのみんなが楽しくなるようなことを僕のみなさんで考えてください。</p> <p>&lt;話し合ったこと&gt;                  1. みんなの力を合わせてがんばる。                  2. みんなの力を合わせてがんばる。                  3. みんなの力を合わせてがんばる。</p> <p>&lt;よくやること&gt; ほかのみんながまわってみたいようなことを                  しよう。</p> <p>みんなの力を合わせてがんばる。                  みんなの力を合わせてがんばる。                  みんなの力を合わせてがんばる。</p> <p>&lt;感想&gt;、みんなの力を合わせてがんばるのことが楽しかったです。                  (い)と、とてもいい気分でした。</p> <p>先生から                  一番、がんばるの気持ちが伝わってきた。                  みんなの力を合わせてがんばる。</p>

(3) 達成感や満足感を味わわせるために

- ① 児童理解を学級経営に生かす。
- ② 児童の「がんばりみつけ」の記録に対し、教師からのコメントをする。
- ③ 話し合いカードや行動カードに感想を記録し、自己の活動を振り返る機会を与える。
- ④ 「帰りの会」などで「がんばりみつけ」の発表をし、自分の行動や感想などを他の児童に理解してもらう。
- ⑤ 日記、作文、発表などによる評価の位置づけ
- ⑥ 児童の活動をチェックし、一人一人へのことばかけを心がける。



## 5 授業実践

### 学級活動指導案

平成5年1月18日(月)第5校時

第3学年2組 男子21名 女子15名 計36名

授業者 砂川勝美

(1) 主題 「みんなで楽しく取り組もう」

題材名 「ドッジボール大会をしよう」

(2) 主題設定の理由

① 主題について

本学級では、

- ・ 一人一人が積極的に活動する学級
- ・ 教師、児童それぞれが認め合い、一人一人が存在感のある学級
- ・ みんなが協力しあう学級

という経営方針をもっている。二学期末の学級経営では一人一人に目をむけ、児童の存在感を高め、認め合うことに重点を置いてきた。本主題ではさらに発展させて、協力しあって活動しようとする意欲的な態度を育てたい。

② 児童について

児童はこれまでに何回か話し合いをもち学級会を開いてきているが、あまり計画性のあるものではなかった。日常の学校生活を話し合い活動の結び付きが弱く、話し合ったことが実践化されるのは容易ではなかった。

12月に計画委員会を設置し、週計画を立て「お楽しみ会をしよう」という題材を通して活動してきた。それと併行して(課題意識が希薄な児童が多いため)児童一人一人にめあてカードを作成させ、毎日「がんばりみつけ」を試みてきた。児童は、「お楽しみ会を成功させよう」という学級めあてにむかって、それぞれ役割分担をし、意欲的に活動する姿が多くみられるようになった。しかし、まだ傍観者的な立場の児童がいる。また、みんなと協力して活動する児童は多くなったが、自分の考えをもちみんなの前で発表できる児童はまだ少ない。話し合い活動をより活発にさせることによって児童の意欲的な活動が見られると思う。

③ 題材について

本題材は、児童の中から提案されて選定されたものである。提案理由は次の通りである。

<提案理由>

- ・ 学級のみんながやりたがっているから
- ・ みんながルールを知っているから
- ・ みんなが仲良くできるから
- ・ みんなが進んでがんばれそうだから



- ・ 学級会の役割分担、時間割り振り（計画委員会）
- ・ チーム編成、プログラムの決定（学級会 第一次）→決定事項の掲示

④ 展 開

時間	活 動 の 流 れ		留 意 点	評 価
3分	1 はじめのことば	司会		
	2 議題の確認	司会		
	3 提案理由の発表と説明	児童		
	4 これまでの話合いの確認	司会	・ 前回の学年会で決定したプログラムについて確認させる。	
5分	5 話し合う内容の確認	司会	・ 個人の話し合いカードにもって前もって記録させておく。 ・ 板書も準備させておく。	
10分	6 話し合い ① 学級めあてについて	児童	・ 児童に前もって考えさせ、発表がスムーズにいくようにさせる。 ・ これからの活動が意欲的にできるようなめあてを決めさせる。	自分の考えをも って話し合いに参 加できたか。
	<p>きょうは、学級めあてと係のふりわけについて、話し合いたいと思います。 まず、学級めあてについて話し合いたいとおもいます。 意見のある人は、発表してください。 ○○さん、どうぞ。 ほかにありませんか？ どのめあてにした方がいいですか。 みんなががんばれるめあてを考えてください。 それでは、学級めあては、「……………」に決めます。</p> <p>次に、係のふりわけをしたいと思います。</p>			
15分	② 係を決める	児童	・ グループでの話し合いをさせ、自分のやりたい係を決めさせる ・ 自分の意見をきちんと主張させ、他の意見をきちんと聞くようにさせる。 ・ 係が決まったら、各自で板書させる。	グループの中で 自分の意見を主 張し、話し合いが できたか。

2分	7	決定したことの発表	記録	各グループに入って、話し合いの方向性をもたせるように援助する。
5分	8	先生のお話	担任	児童が意欲をもって活動できるように励ます。
5分	9	記録、発表		決定事項を話し合いカードに記録させ感想を発表させる。

(6) 事後の指導

- ① 係のグループめあてをもたせ、毎日「めあてカード」に記録させる。→がんばりみつけ
- ② 「行動カード」を活用させ、活動の工夫をさせる。→各チームや各係での取り組み

行動カード (わいわい)

☆ 今度のドッジボール大会も楽しみですね。みんなで力をあわせてがんばりましょうね。ほかの係のお友だちが、楽しくなるようなことを係のみなさんと、考えてください。

＜係のしごと＞  
1. 足下のおまかせを用意する。  
2. 時間は自分にはかき、時間外はかき。  
3. ...

＜よくすること＞ ほかのみんなが、まわって楽しくなるようなことを考えてみましょう！  
タイムの練習にみんなをさそってみんなにかしえる。

＜感想＞  
ほくは、時差がかりを、かんとみんなに、やくたててもらって、うれしいです。

行動カード (わいわい)

☆ 今度のドッジボール大会も楽しみですね。みんなで力をあわせてがんばりましょうね。ほかの係のお友だちが、楽しくなるようなことを係のみなさんと、考えてください。

＜係のしごと＞  
1. ルールとじつめいする。  
2. 反そくをしてないか。  
3. ルールを守っているか。

＜よくすること＞ ほかのみんなが、まわって楽しくなるようなことを考えてみましょう！  
1. ルールをいろいろ作る。  
2. 2x7を作ります。

＜感想＞  
この大会もみんなをさそって行くので、たいせつな大会です。

行動カード (わいわい)

☆ 今度のドッジボール大会も楽しみですね。みんなで力をあわせてがんばりましょうね。ほかの係のお友だちが、楽しくなるようなことを係のみなさんと、考えてください。

＜係のしごと＞  
1. プログラム表を作る！  
2. しかいがか、プログラムに書いたことをはひする！  
3. たいせんひうをつくる！

＜よくすること＞ ほかのみんなが、まわって楽しくなるようなことを考えてみましょう！  
プログラムの表を作った、絵まかいたりして、おもしろい、楽し！

＜感想＞  
ドッジボール大会で、プログラムをつけたときの、おもしろい、か... (おもしろい、か...)

ピンヒール行動カード (わいわい)

☆ 今度のドッジボール大会も楽しみですね。みんなで力をあわせてがんばりましょうね。ほかの係のお友だちが、楽しくなるようなことを係のみなさんと、考えてください。

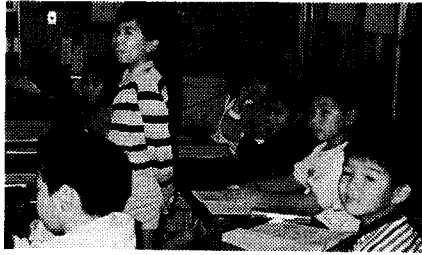
＜係のしごと＞  
1. 使う物をじかんびする。外野には...  
2. コートをつくる人。  
3. センケノをじかんびする。

＜よくすること＞ ほかのみんなが、まわって楽しくなるようなことを考えてみましょう！  
席をさそって、おもしろい。

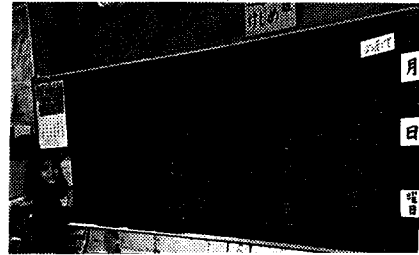
＜感想＞  
とても、楽しんでおもしろかったです。また、してあげたいと思います。みんなのするときも楽しんでください。

(7) 児童の活動過程

①「議題の提案理由を発表します。」



②話し合いの記録



③係の振り分けの話合い



④「これからがんばることを発表します。」



⑤「優勝チームにはメダルもあげようね!」



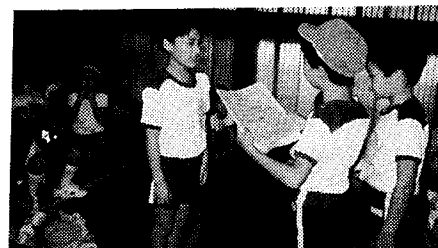
⑥「これからドッジボール大会を始めます。」



⑦  
作  
戦  
タ  
イ  
ム



⑧  
優  
勝  
や  
っ  
た  
ね



感想

- ☆ ドッジボール大会が楽しかったわけは、はなしあいをみんなできちんとしてみんなできょうりよくしてみんなががんばったからだわたしはおもいます。
- ☆ ぼくは、こんどはやきゅう大会がやりたいと思います。わけは、みんないっしょに楽しくできるからです。
- ☆ 次にやりたいことは、三年二組が一年間みんなががんばったら、おわかれかきやおたのしみかきどれかひとつしたいです。ドッジボール大会をして考えることがひとつずつ多くなりそうです。

(8) 評 価

- ① 意欲的に活動に取り組むことができたか。
- ② 友だちの意見を聞き、自分の考えをみんなの前で主張できたか。
- ③ みんなと協力できたか。
- ④ 自分の活動を振り返ることができたか。

(9) 授業後の反省

- ① 授業者の反省
  - ・ 計画委員会がまだ定着していない。
  - ・ 三年生の段階で話し合いを臨機応変に進めていくのはむずかしいと思われたので、ある程度シナリオを組んで学級会や計画委員会を進めてきた。
  - ・ 係の振り分けについて話し合うときには、児童が自分の意見を主張するだけで、話し合いが成立しなかったのが、もっと手だてが必要だった。
- ② 課題及び見直す点
  - ・ 話し合いのルールにそって話し合われたか。
  - ・ 児童の主張と譲り合いの研究を深めていく。
  - ・ 学年に応じて、どの程度話し合い活動ができればよいのか、その系統性を研究する。

V 研究のまとめと今後の課題

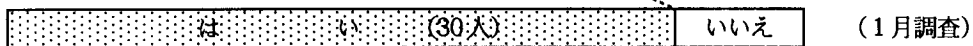
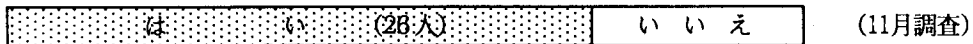
1 研究のまとめ

児童の変容をとらえるために、11月実態調査と1月実態調査を比較してみると次のようなことがわかった。

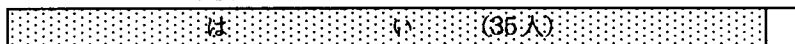
- ・ 課題意識をもった児童が多くなった。
- ・ やりはじめたことを最後までやりぬこうとする児童が多くなった。
- ・ 自分の意見を主張できる子がまだ少ない。

「めあてカード（がんばりみつけ）」を記録することによって、児童が自己の活動を振り返ることができるようになった。また、「がんばりみつけ」に教師からのコメントを書き入れることによって、児童の意欲的な活動が見られ、達成感や満足感をもたせることができた。しかし、話し合い活動の定着がまだ不十分である。児童がより意欲的に活動するためには自分の考えが全体の場で反映されるかどうかが大きく関わってくるであろう。今後も話し合い活動を生かした学級経営の工夫に取り組んでいきたい。

(1) あなたは、学校の生活が楽しいですか？（調査対象：男子21人 女子15人 計36人）



(2) あなたは、学校でたくさんの友だちがいますか？



(3) あなたは学校で、今これをしなければならぬという目標がありますか？

はい (9人)

はい (30人)

(4) あなたは、自分でやり始めたことを最後までやりぬく方ですか？

はい (8人)

はい (17人)

(5) あなたは、学校でよく自分の意見を言う方ですか？

←はい (1人)

←はい (4人)

(6) あなたは、学校で自分の意見が進んで言えるようになったら、とてもやる気が出てくるとおもいますか？

はい (17人)

はい (32人)

(7) あなたは、学校で決まったことがうまくいくようにみんなと協力できますか？

はい (18人)

はい (21人)

## 2 今後の課題

- 学級経営年間計画の実施と見直しをする。
- 各学年の発達段階に応じた話し合い活動の系統性を把握する。
- 話し合い活動を定着させるために、さらに具体的な手だての工夫をする。

## 3 おわりに

今回の研修の機会に学校現場を離れ、子どもについて、また学級経営について見直すことができたことは、私にとってとても有意義なことでした。研究はまだまだ不十分ではありますが、ここでの経験を生かし、子どもに負けないよう主体的にがんばっていけるように努力したいと思います。最後に本研修で細部にわたるご指導を下さいました県立教育センターの與古田清正先生、たえず暖かいご配慮を下さいました当研究所の嘉手苅喜郎所長、伊波義雄指導主事、運営委員の諸先生方、島袋文雄校長先生をはじめ応援して下さいました大謝名小学校の職員の皆さん、検証授業でお世話、ご協力いただきました学年の先生方に心より感謝いたします。

## 4 主な参考文献

- 「学校づくりを目ざす学年・学級の経営」 下村哲夫編 (ぎょうせい)
- 「学ぶ力を育てる学級づくり」 学び方教育研究所編 (明治図書)
- 「学級話し合い活動の指導」 授業技術研究所編 増谷謙也著 (明治図書)
- 「学級活動の年間指導計画と展開」 宇留田敬一編 (明治図書)
- 「話し合い・討議の導きかた」 坂元光男編・浅見慎一著 (明治図書)